

経済産業部

ロボット研究会
発足記念講演会を開催

経済産業部が推進するOKINAWA型産業振興プロジェクトでは、昨年10月に県内大学等及びプロジェクト会員企業によるサービスロボットの製品化を目指した「ロボット研究会」を発足しました。

これを記念して、11月24日、ヒューマノイド型ロボット（二足歩行ロボット）競技会「ROBO-ONE」を主宰する西村輝一氏（同委員会代表・株式会社いすゞ中央研究所エンジン研究第一部部長）を招き、記念講演会を開催しました。

西村代表は、「ロボットビジネスの今後」と題した講演の中で、「ROBO-ONE」の活動内容及び今後の取組等の紹介に加え、ロボット開発における「時代の流れ」を読む大切さや、サービスロボットの具体化に向けて、ニーズと技術の把握、統合的モデルベース開発の活用、長期的視点に立った技術人材育成の重要性について触れ、「サービスロボットは人の心をつかむことが重要」と参加者に訴えました。

また、講演前のデモンストレーションとして、プロジェクトの会員企業である株式会社レイメイコンピュータが製作したヒューマノイド型ロボットの実演も行いました。



農林水産部

沖縄県畜産共進会
（種畜部門）を開催

第32回沖縄県畜産共進会（主催：沖縄県畜産共進会協議会）が平成18年11月9日～10日の日程で南部家畜市場（八重瀬町）において開催されました。



本共進会は、県内で生産される家畜の改良及び畜産農家の飼養管理技術の向上の成果を競い合う場として毎年開催されています。初日の開会式で、竹林局長から「本日の共進会を契機として畜産振興が図られることは極めて有意義なものであり、今後とも畜産農家と関係者が連携した取組を期待しております。」と祝辞を述べられました。

開会式終了後、各部門ごとに厳正な審査が行われました。

その結果、農林水産大臣賞には、今帰仁村の徳山盛仁さん（肉用牛）、沖縄市の高宮城愛子さん（乳用牛）、うるま市の大石根良枝さん（種豚）がそれぞれの部門で決定されました。また、生産局長賞には本部町のもとぶ牧場（肉用牛枝肉）が決定されました。



（優秀賞を受けた肉用牛）

財務部

地域密着型金融に関する
シンポジウム開催！

去る12月22日（金）、地域密着型金融の一層の推進を図ることを目的に、那覇市内において「地域密着型金融に関するシンポジウム2006」（主催：沖縄総合事務局）を開催しました。一般の方々をはじめ金融業界など約90名の方々が出席されました。

シンポジウムでは、まず、琉球銀行、沖縄銀行、沖縄海邦銀行から事業再生や融資に係わる特色ある取組み事例の発表をいただきました。

続いて、山内眞樹氏（日本公認会計士協会沖縄会会長）をコーディネーター、永田均氏（琉球大学法科大学院教授）、野中正信氏（宜野湾市商工会事務局長）、仲宗根京子氏（消費生活アドバイザー）、東門巽氏（㈱おきなわりバイタル社長）及び3行の事例発表者をパネラーとしてパネルディスカッションが行われました。

ここでは、「沖縄において地域金融に期待すること」と題し、地域企業の事業再生に向けた取組みや担保・保証に過度に依存しない融資等中小企業金融の円滑化について、今後のあり方を含め、活発な議論が交わされました。



シンポジウムの様子

運輸部

年末年始の輸送等に関する安全総点検の実施

大量の輸送需要が発生し、輸送機関等に人流・物流が集中する年末年始は、ひとたび事故等が発生した場合には大きな被害となることが予想されます。

このため、陸・海にわたる輸送機関等について、10月1日より施行された運輸安全一括法の趣旨を踏まえた経営トップを含む幹部の強いリーダーシップの下での自主点検等を通じた安全性の向上を図るため、「年末年始の輸送等に関する安全総点検」を平成18年12月10日～平成19年1月10日まで実施しました。

今回の総点検においては、所期の目的を達成することができるよう、飲酒運転を防止するための体制整備状況、気象情報（特に交通障害を生じる恐れのあるもの）の収集・伝達体制の整備状況、テロ防止のための警戒体制及び発生時の通報・連絡・指示体制の整備状況を重点点検事項としました。

具体的には、モノレール、バス、タクシー、トラック及びターミナル事業者等陸上交通関係、旅客定期航路事業者等船舶関係、政府登録ホテル等宿泊施設関係及び第一種旅行業者に対して適切な点検を行うよう指導を行ったほか、期間内に職員による立入検査を実施し、点検において発見された不備事項については、早急な改善を指示・指導しました。



開発建設部

「喜舎場スマートIC社会実験」を開始

沖縄初のETC専用インターチェンジ「喜舎場スマートIC社会実験」を平成18年11月25日（土）より開始いたしました。

沖縄県は那覇方面への交通集中により、南北方向の幹線道路である国道58号などの直轄国道においては、慢性的な渋滞が発生しているが、同様の働きを担う沖縄自動車道においては、比較的容量に余裕があるため、そのアンバランスな利用形態の解消が重要な課題となっています。

このような状況の下、南北道路の強化とそれを連絡する東西道路整備を前提とした「ハシゴ道路」の整備が検討されてきました。

当スマートICは、「ハシゴ道路」の整備の一環として、沖縄自動車道・喜舎場バス停において、高速道路の利用促進、北中城IC及び周辺道路の混雑緩和、喜舎場スマートICの本格導入に向けた課題を把握する事を目的に、喜舎場スマートIC地区協議会（沖縄総合事務局南部国道事務所、沖縄県、北中城村、西日本高速道路（株）、沖縄県警）を主体に実験を実施しております。

実験概要は以下の通りですので、皆様是非ご利用ください。

実験箇所：沖縄自動車道 喜舎場バス停
（北中城村役場前）

実験期間：平成18年11月25日
～平成19年3月31日

利用時間：AM6：00～PM8：00

利用可能車両：普通車、軽自動車等

ご利用に当たっての注意：

IC予告ゲート、本ゲート、バス加速車線合流部においては一旦停止してください。



経済産業部

自立的発展実現フォーラムを開催

地域に活力を与えることができるのは、その地域の「人」です。経済産業部では、昨年1年をかけて沖縄本島北部、中部、南部、宮古、八重山の5地域から核となる人材を発掘、彼らの活動を支援するプロジェクトを実施しました。その地域を継続的に元気づけると注目されている53名のキーパーソンを選出し、経済産業部職員が現地に出向き彼らの活動内容や意見等を直接聴取することで、地域振興のあり方を模索してきました。

地域振興を進めていくには、キーパーソンのみならず、その地域の自治体、商工会等の団体と歩調を合わせて活動することの重要性が見えてきました。そこで、各地の意見交換会の議論を共有するために、平成18年11月29日、那覇市内において全県ベースの「自立的発展実現フォーラム」を開催しました。フォーラムは、一橋大学大学院の関光博教授の、地域振興のために日本各地で活動する特筆すべき人達に関する基調講演で始まり、パネルディスカッションでは、5地域の代表が「これからの地域振興の課題として、キーパーソンに限らず地方自治体を始め各地域団体等が連携し、情報等の共有により地域の力を結集した取組を進めていくことが大切で、地域経済の自立化を実現するために各地域におけるネットワークの形成が重要。」とし、各地域の活性化策等をコミットメントしました。フォーラム終了後の懇親会でも、地域ごとに集まってキーパーソンや自治体等職員の意思形成が行われるようにしました。

経済産業部では、今回の経験を踏まえ、これからもキーパーソンの発掘と、彼らの前向きな活動が効率的に進むようにキーパーソンを結ぶ活動を行っていきます。

